

XII 学部・学科の入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）

◇総合人間学部

総合人間学部は、たえまなく変化する現代社会における人間と文明と自然の新たな結びつきを見出すために、人文科学、社会科学、自然科学を横断する「人間の学」の創出をめざしています。この挑戦に積極的に加わり、とす志をもつ人、人類が直面する様々な課題に向きあう進取の精神をもつ人、持続的で創造的な取り組みを支える教養を身につけたいと考える人を本学部は求めます。

総合人間学部が入学を希望する人に求めるものは、高等学校の教育課程の教科・科目を広く修得することに加えて、その内容を活用する主体的な思考力・判断力・表現力、そして他者と協働しながら学ぶ態度です。総合人間学部の入学選抜は、京都大学の一般入試において、文系と理系の2つの募集区分を設け、多様な基礎的学力を測ります。また本学部独自の特色入試では、高等学校における学びの成果、基礎的学力とともに、文系と理系の総合的な思考力・表現力を評価します。

◇文学部

1. 京都大学文学部は、哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる諸問題を学び考え、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、新たな知的価値を創出することをめざす学生を求めます。
2. 京都大学文学部は入学希望者に対し、以下の点を入学前に具えておくことを求めます。
 - (1) 総合的な基礎学力をもっていること。
 - (2) 過去から現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みに関して、深い関心をもっていること。
 - (3) 高度の文章読解力、および論理的かつ柔軟で、創造性豊かな思考力とそれを表現する力をもっていること。

入学試験においては、これらの力が具わっているかを判定します。

なお、特色入試においては、入学後の勉学についての展望と具体的プランをもっていることも問います。

◇教育学部

本学部は、教育と人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことにより、心、人間、社会についての専門的識見を養成し、さらに広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判断力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓培することで、地球社会の調和ある共存に貢献できる人材の育成を目的としています。

本学部は、以上の目的を理解し、本学部での学修を希望する者に対して、1) 総合的な基礎学力、2) 人間と社会についての深い関心と洞察力、3) 柔軟な思考とゆたかな創造力をもち、大学教育を通して、人間と社会、教育や心理についての関心を深め、論理的・批判的思考力、問題解決力とコミュニケーション能力を身に付けることができる学生を求めています。それらを大学入試センター試験及び「文系」型又は「理系」型の個別学力検査により評価します。

また、いったん他学問分野での専門教育を受け、あるいはさらに社会経験を積んだ本学部以外の大学卒業生で、再度、教育諸学における専門教育の勉学を志す者に対しては、学士入学（第3年次編入学）の選抜試験により、同様のことを評価します。

さらに、特色入試選抜においては、上記に加え、(1) 教科及び総合的な学習の時間などにおいて、学習を深め、探究活動を行い、卓越した学力を身に付けていること、あるいは、学校内外の活動で豊かな経験を積み、熟達を通して、深い洞察力を得ていること、(2) 将来、主体的に社会に貢献する志をもっていることを、提出書類、課題と口頭試問に基づく選考、大学入試センター試験により評価します。

◇法学部

21世紀に入り、地球規模での交流が活発化し、科学技術や産業の革新が進む中、世界も日本も大きな転換期を迎えている今日、広い視野から国家や社会のあり方を深く考え、新たなビジョンを示して、時代を切り拓いていく優れた人材が求められています。

このような要請に応えるため、京都大学法学部は、自由の学風の下、豊かな教養を涵養し、国家・社会の制度や組織の設計及び運営等に必要なる法学及び政治学等の基本的知識の修得並びに思考力、判断力、構想力及び表現力等の育成を図り、グローバルな視野から、法、政治、経済及び社会を多面的かつ総合的に捉え、多様な価値観や文化を尊重し、地球・自然環境に配慮しつつ、多元的な課題の解決に取り組み、人々が協働し共に生きる社会の実現に貢献できる優れた能力と高い志を備えた人材を養成することを教育目標としています。

1. 法学部では、このような教育目標に基づいて編成・実施される教育課程において学び、学位授与の方針に示される知識及び能力等を修得して、様々な分野で指導的な役割を果たすことができるよう、次に掲げる能力・資質等を備える者の入学を期待しています。
 - (1) 国家・社会の制度や組織等の基礎及び背景を理解し、法、政治、経済及び社会を多面的かつ総合的に捉える基盤とするため、人間、社会及び自然に関する基本的知識及び見方・考え方を確実に身につけていること。
 - (2) 国家・社会の制度や組織の設計及び運営に携わり、企画立案を行い、課題を解決する基盤とするために、(1)に掲げる知識及び見方・考え方を活用して、多元的な課題を考える思考力、判断力及び構想力等の基本を身につけていること。
 - (3) 様々な分野で、多様な人々と協働し、指導的な役割を果たす基盤とするため、多様な考え方を理解し、論拠を示して自らの意見を述べることができる基本的なコミュニケーション能力、とりわけ論理的な文章力の基本を身につけていること。
 - (4) グローバル社会において活躍するために必要な英語その他の外国語の基本的な四技能をバランスよく身につけていること。
 - (5) グローバルな視野から国家・社会に関する事象に強い関心を持ち、このような事象を本質から理解しようとする知的探求心を有すること。
 - (6) 未だ答えのない課題等を自ら見だし、文献や資料等を調査して、徹底して考え抜こうとする自学自習の姿勢を有していること。
2. 法学部では、こうした資質・能力等を備えているか否かを、次のような入学者選抜により判定します。
 - 一般入試選抜においては、5教科8科目又は6教科8科目の大学入試センター試験及び論述式試験を基本とする4教科の個別学力検査等により、上記の(1)から(6)の能力・資質等を総合的に判定します。
 - 特色入試においては、5教科8科目又は6教科8科目の大学入試センター試験及び調査書の成績、日本語と英語の文章を題材とした小論文試験により、上記の(1)から(6)の能力・資質等について、特に(3)(5)及び(6)の能力・資質等を重視して総合的に判定します。

◇経済学部

経済学・経営学は個人から政府に至るまでの幅広い対象の経済活動ならびに企業の営利活動を研究対象とし、個人や社会の厚生の上を目指す学問です。その研究対象は決して単純ではなく、財政、産業、雇用、金融、地球環境などに解決すべき諸問題が次々と発生し、複雑性を増しています。京都大学経済学部は、自由の学風を維持しつつ、経済学・経営学の基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育することを心がけ、社会経済の変化に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することで学界、官界、産業界に貢献してきました。このような歴史を踏まえ、京都大学経済学部は、経済学・経営学的分析能力を修得できる知力と探究心を持ち、かつ、教員や他の学生と積極的に討論を重ねることにより、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

【経済学部が求める学生像】

- ・ 高等学校教育を通じて広範で高度な基礎知識を身につけるとともに、論理的思考力ならびに語学能力を修得している人
- ・ 社会・経済活動全般に積極的に関与したいと考える、知的好奇心が旺盛な人

京都大学経済学部が求めるような学生の成長を促すうえでは、多様な背景をもつ学生を受け入れることが重要であり、現在、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という3種類の学力検査を実施しています。定員の多くを占める文系入試においては、経済学・経営学を学ぶための基礎となる社会と数学、論理的思考力を担保する国語、専門教育や卒業後の国際的活動に不可欠な英語の4科目に関して個別学力試験を実施しています。理系入試においては、文系入試における社会の試験に代えて理系用の数学試験を課すことで、経済分析で重要となる数理的能力を重視した選抜を行っています。特色入試では、書類審査の後、筆記試験で論文を課し、与えられた文章や資料を理解して問題点を把握できる能力、ならびに、自己の主張を的確に表現できる論理構成能力を重視した選抜を行っています。また、これらの3種類の入試においては、総合的学力の評価を行うために大学入試センター試験の点数を取り入れた合否判定を行っています。その他にも、外国人留学生、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供しています。

◇理 学 部

理学は自然現象を支配する原理や法則を探究する学問であり、その活動を通じて人類の知的財産としての文化の深く大きな発展に資するとともに、人類全体の生活向上と福祉に貢献する知的営為であります。京都大学理学部は、自由な雰囲気の下での学問的活動を何よりも大切に、新しい学問分野の創造に重要な役割を果たしてきました。その一端は、卒業生の中から4名のノーベル賞受賞者と2名のフィールズ賞受賞者を出したことからもうかがえます。現在もこの学風を継承し、多くの優れた人材を輩出する教育機関として更なる発展を続けています。京都大学理学部は、自由の学風の下で、将来の理学の創造、発展、応用、普及のための能力と知識を身につけることができる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

【理学部が理想とする学生像】

- 自由を尊重し、既成の概念を無批判に受け入れることなく、自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- 高等学校の教育課程により培われる十分な科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人

京都大学理学部では1学科制のもと、「緩やかな専門化」を経て、それぞれの学生の能力・適性に合致した専門分野に向う教育を行っています。高等学校における数学と理科は、入学後、理学の各分野のより高度な内容を学ぶための基礎であり、それに対応できるような深い理解が求められます。また、国語は、論理的にものごとを考え表現する力の基礎となります。英語の力は、入学後、専門分野の学習、そして、将来の国際的な活動を支えるものとなります。したがって、入学する学生には、将来の専門にこだわることなく、高等学校において、幅広い学習を行ってこられることを期待します。これらの学力を測るために、京都大学理学部では、数学・理科(物理、化学、生物、地学から2科目)・国語・英語の個別学力検査を実施するとともに、大学入試センター試験の点数も取り入れた合否判定を行っています。

また、理学の中でも特に数理科学の分野では、高等学校時から極めて優れた才能を現す者が見受けられます。そのような学生を求めるため、京都大学理学部では特色入試を行い、志願者の数学についての取り組みや達成に関する報告書等の提出書類、数学に関する能力測定考査、口頭試問、および大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定しています。

理学部の教育の概要はこちらをご覧ください：<http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/ja/about/divisions.html>

◇医 学 部

◎医学科

京都大学医学部は、1899年(明治32年)に京都帝国大学医科大学として創立された百有余年の歴史と伝統持つ医学部として、世界に誇る指導的な医学者、医学研究者を輩出してきました。医学部医学科は、京都大学が創立以来築いてきた自由の学風を継承し、医療の原点である「人を愛する」精神のもと、学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しています。

このような方針を踏まえ、世界の医学・医療の発展を担い、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成するために、以下のような学生の入学を期待します。

【医学部医学科が望む学生像】

- 自ら課題を発掘する好奇心や探究心、それを解決しようとする主体性を持っている人
- 高い倫理性と豊かな人間性を備え、他者との協調性を持っている人
- 優れた知的能力とともに、国際的視野を持っている人

入学する学生には高等学校等において、教育課程の教科・科目の習得による基礎学力に加え、分析力や俯瞰力により、これを高度な学びへと展開できる向学心を培うことを求めます。医学部医学科が望む学生を選抜するために、一般入試(前期日程)は、大学入試センター試験並びに個別学力審査及び面接試験により、総合的に合格者を決定します。

また、医学・生命科学に深い関心を持ち、真摯な姿勢、強い熱意を持って真理を探究し、世界の医学をリードする医学研究者としての資質・適性を持つ人材を求め、特色入試を実施します。高等学校での成績および英語能力において所定の基準を満たす学生を対象に、高等学校での取り組みや医学研究に対する考えに関する報告書等の提出書類並びに小論文試験及び面接試験により、合格者を決定します。

◎人間健康科学科

京都大学医学部人間健康科学科は、1899（明治32）年に設置された京都帝国大学医科大学附属医院看護婦見習講習科に始まり幾多の変遷を経て、数多くの医学・医療従事者を輩出してきました。その歴史と伝統を基盤とし、21世紀の医学・医療の発展を担う「人間健康科学（Human Health Sciences）」の確立を目指しています。

そこで、本学教育の基本理念のもと、自由の学風を継承し、人類の健康と福祉に貢献する高度医療専門職及び総合医療科学領域における世界トップレベルの独創的な学術研究をリードする人材の育成を使命とし、以下のような学生の入学を期待します。

【医学部人間健康科学科が望む学生像】

- ・未知へと挑戦する進取の気性に富む人
- ・真理を追求する情熱を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を備えている人
- ・優れた知識と技能及び思考力・判断力・表現力を持ち、自学自習のマインドを持つ人
- ・協調性に優れ、周囲の人間と良好なコミュニケーションをとることができる人
- ・将来、高度医療専門職、総合医療科学領域において、国内外の独創的な学術研究をリードする意欲のある人

数学と理科については、医学的、科学的な理解と、より高度な知識を学ぶために基礎となる学問であり、本学科では十分な理解が求められます。国語については、一般的に必要な基礎知識と論理的な考え方、表現力を身につけるため、また、英語については、国際的に通用する情報を確実に得てグローバルに活躍するためのコミュニケーション能力の涵養が重要となります。したがって、入学する学生は高等学校においてそれぞれの科目を幅広く学習していることを期待します。

これらの学力を測るため、本学科では、数学・理科（物理・化学・生物のうちから2科目）・国語・英語の個別学力検査を実施するとともに、大学入試センター試験の点数を取り入れて、合格者を決定します。

また、将来のビジョンが明確にあり、その分野への関心が非常に高い優れた人材を求めるため、特色入試を導入し、高等学校における取り組みや活動、大学入学後の学習設計に関する書類選考と、論文試験並びに面接試験及び大学入試センター試験により、合格者を決定します。

◇薬学部

◎薬科学科

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーを輩出してきました。

薬科学科では、創薬に関係する幅広い分野において、将来、リーダーとして国際的に活躍することのできる人材を育成しています。そのため、次のような人材を求めています。

- ・高等学校等における学習・課外活動を通じ、十分な基礎学力とコミュニケーション能力を有していること。
- ・自ら目的を設定し挑戦できる行動力があること。
- ・創薬に関心と興味を持ち、将来創薬領域で世界をリードできる薬学研究者を目指していること。

特色入試においては、高等学校における学業活動、志望動機・入学後の学習設計、大学入試センター試験および英語能力試験、論文試験、面接試験によりこれらの点を評価し、入学者選抜を行います。一般入試においては、大学入試センター試験および個別学力検査により基礎学力を評価します。

◎薬学科

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーを輩出してきました。

薬学科では、医療薬学に関係する幅広い分野において、将来、医療薬学研究者の国際的リーダーとして活躍することのできる人材、および高度な先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーとして社会に役立つ人材を育成しています。そのため、次のような人材を求めています。

- ・高等学校等における学習・課外活動を通じ、十分な基礎学力とコミュニケーション能力を有していること。
- ・自ら目的を設定し挑戦できる行動力があること。
- ・先端医療・医療薬学に関心と興味を持ち、将来、医療薬学領域で世界をリードできる医療薬学研究者、および先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーを目指していること。

特色入試においては、高等学校における学業活動、志望動機・入学後の学習設計、大学入試センター試験および英語能力試験、論文試験、面接試験によりこれらの点を評価し、入学者選抜を行います。一般入試においては、大学入試センター試験および個別学力検査により基礎学力を評価します。

◇工 学 部

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する。」ところにあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと見るといことです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する。」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を主体とする学部である。」と考えられています。「基礎を重視する。」と言いますと、やや異質な印象を持たれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、「基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用展開や技術の発展を可能とするための必須条件である。」という理念の下に、この教育方針を採っています。

このような方針の教育を受けてもらうために、次のような入学者を求めています。

- 1.高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- 2.既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと確かめ、得られた情報や知識を整理統合し論理的に考察することによって、物事の本質を理解しようとする人。
- 3.日本語・外国語を問わず、自らの意見や主張をわかりやすく発信する能力を身に着けるために必須の基礎的な言語能力とコミュニケーション能力を持った人。
- 4.創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、数学・理科・英語・国語の基礎学力の評価に重点を置いて、個別学力検査および特色入試を実施し、上述の観点から多様な人材を評価・選抜しています。

なお、特色入試では、上記の基礎学力に加えて、特筆すべき理系の能力を持つ人材を求めて、学科ごとに、入学を望む学生像に応じて、調査書、推薦書、顕著な活動実績の概要、学びの設計書、大学入試センター試験の成績、口頭試問の中から必要項目を選択・組み合わせ、人物を評価しています。

◎地球工学科が望む学生像

住みやすく豊かな都市と地域、安全に暮らせる国土、資源・エネルギーを基礎とした持続的文明、環境に配慮した地球社会を築いていくために、広く社会に役立つ土木工学、資源工学、環境工学を学びたい人を求めています。社会に貢献するための科学技術を学びたい人、多様な技術を集約して問題の解決をしたい人、国際的に活躍したい人、官・民・学の広い範囲から就職先を考えたい人、に最適な学科です。地球工学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と思考力を備えた人を求めます。

◎建築学科が望む学生像

人間生活に密接に係わる建築は、多様な技術を総合した創造的な努力によってつくりだされます。このため、自然科学だけでなく、人文科学、社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生を歓迎し、その才能を伸ばす教育を行います。建築家、建築技術者、研究者、建築・都市行政の担当者、各種事業に携わるプランナーなどを目指す人を望みます。

◎物理工学科が望む学生像

次世代の画期的な機械システム、新材料、エネルギーシステムを開発すること、宇宙空間への活動の場を拡げていくことに強い関心を持ち、これらの課題の実現に向け、古典物理学から近代物理学に到る幅広い物理学を基礎とした工学を学ぶ意欲を持つ人を求めます。物理工学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と思考力を備えた人を求めます。

◎電気電子工学科が望む学生像

自然現象や科学技術，その人間生活との関わりなどに対して広い関心と旺盛な探究心をもつとともに，電気電子工学関連の学術分野へ強い興味を有し，専門教育を受けるのに十分な基礎学力と論理的思考力を備えた創造性豊かな入学者を求めます。

◎情報学科が望む学生像

高度情報社会における幅広い問題を情報学の知識と数理的思考により解決することに強い関心を持つ人を求めます。数学，物理学をはじめとする理科系科目に関する十分な基礎学力と論理的思考力に加えて，情報学が関係する人文・社会科学を含めた諸学問に対する興味を持つ人を求めます。

◎工業化学科が望む学生像

化学および化学に関連する工学のすばらしさを理解し，学習する志と意欲をもち，既成概念にとらわれずに物事を論理的に考え，さらに自ら問題を解決しようとする人を求めます。したがって，高等学校での学習内容をよく理解し，工業化学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と能力を有していることが望まれます。

◇農学部

農学部が望む学生像

農学は，生物学のみならず，化学，物理学，社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である「生命・食料・環境」に関わる様々かつ複合的な問題に立ち向かっていくためには，特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は，それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに，学科ごとに異なる高度な専門教育を実施することにより，広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって，各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち，応用力と適応力をもって，それぞれの専門教育に必要な学力を有する学生を求めています。その学力を測るため，一般入試では全学科共通で大学入試センター試験の得点に加え，国語・数学・理科（物理，化学，生物，地学から2科目）・外国語（英，独，仏，中から1科目）の個別学力検査を実施して入学者選抜を行っています。また，各学科の示す人材を求めるために特色入試も行い，調査書，学業活動報告書，学びの設計書，大学入試センター試験の成績のほか，英語能力検定試験，小論文，口頭試問，面接試験を学科ごとに組み合わせて合否判定を行っています。

◎資源生物科学科

農業，畜産業および水産業が抱える諸問題や生物学的諸現象に広く関心を持ち，勉学意欲に富み，問題に対して幅広い視点から論理的に解決案を見だし得る人材を求めます。したがって，英語などの基礎科目について十分な素養を備えているとともに，とりわけ生物をはじめとする理科の科目に関して十分な学力を有していることが望まれます。このような学生を選抜するために，一般入試を行うとともに，明確な問題意識とそれを解決しようとする極めて高い意欲のある人を特色入試で選抜します。

◎応用生命科学科

生命科学，食料生産，環境保全に強い関心を持ち，生命現象や生物の機能を化学的な視点によって解明・活用することに興味がある人を求めます。また，自分の考えをもつとともに異なる意見にも耳を傾けることができ，自分の考えをまわりのひとに的確に伝えることができる人が望まれます。その選抜にあたっては，筆記試験による一般入試の他に，未知の領域に好奇心をもって挑戦できる人材を選考する目的で特色入試を行います。

◎地域環境工学科

一般入試では，農業・農村問題や環境問題，人類への食料供給問題に強い関心をもち，これらの問題解決に向けた物理学・数学を基礎とした工学的・技術的な方法論に関し勉学を志す人を求めます。ただし，農業生産と密接な関係があることから，生物学や生命科学などにも強い関心を持つ学生が望まれます。特色入試では，食料・環境・農業などの分野において，高度な専門知識と工学的問題解決能力を持って社会のリーダーとなるべき人材を求めます。特色入試において，具体的には大学入試センター試験による基礎学力とともに，小論文試験により問題解決能力，論理的思考力について，面接試験により意欲，適性及び識見について評価します。

◎食料・環境経済学科

一般入試では、食料、環境、農林水産業等において生ずる様々な社会・経済問題に対して強い関心を持ち、幅広い観点から自身の力で論理的・実証的に問題の解決に向かって努力する人材を求めます。理科系科目に興味を持ちつつ、経済学を基本としながらも、経営学、社会学、歴史学など人文・社会科学を積極的に勉学したい学生を望みます。特色入試では、一般入試によっては把握できない能力を有し、将来、高度な専門知識を持ち、食料、環境、農林水産分野の発展を主導できる可能性のある人材を求めます。

◎森林科学科

身近な生活空間から地球規模の環境問題までを視野に入れて、森林生態系の保全と活用、森林由来の生物資源の利用、森林と人間の共生などの課題に積極的にチャレンジする人材を求めます。一般選抜においては、応用力、適応力、科学的解析力などをバランスよく兼ね備えた人材を重視します。特色入試では、森林科学の立場から社会に貢献するための高度な専門知識と問題解決能力を習得する強い意欲と能力のある人材を望みます。

◎食品生物科学科

食の観点から、「生命・食料・環境」に関わる課題を包括的に取り組み、科学的に解決する人材を求めています。具体的には、食に関わる幅広い問題に関心を持つとともに、生化学、有機化学、物理化学および分子生物学を基盤とする生命科学はもとより、人と社会に関わる哲学、経済学など人文・社会科学の基礎科目を学ぶ意欲を持ち、これらの学問的背景のもとに、本学科の学理を修得し、将来、産・官・学の各分野において、食品生産工学、食品生命科学および食品健康科学に関わる創造的な研究ならびに開発・生産活動を、高い倫理性とリーダーシップを持って実行できる人材を求めています。その選抜にあたっては、筆記試験による一般入試の他に、国際的に活躍できる人材を選考する目的で、口頭試問による特色入試を行います。